

たじみん昼話 35

求む、夢研究者！身近な対象が研究分野の進路

夢を見たのによく思い出せない経験はないだろうか。また、思い出せた夢も、なぜこんな夢を見たのだろうかという不思議な経験はないだろうか？昔から夢は不思議なもののひとつだった。

フロイトは、夢は「願望を満たすために見る」、ユングは「太古の世界の人々の経験が夢に出てくるのだ」と主張した。2人の学者に共通するのは、夢には意味があり、夢を解釈することによって無意識の世界が解明できるとしたことだ。

その後、脳波計など測定機器が発達して、夢はレム睡眠〔寝ているけど目の玉が動いている状態〕のときに見ることがわかり、「夢は脳のランダムな刺激により起こる電気信号であり、機能的なものだ。だから夢は意味がない」〔トムソン〕と考えられるようになった。

その後、MRI〔検索してね〕等の医療機器の登場により脳の機能研究が進み、様々な部位の血流や電気信号が捉えられるようになった。そして脳機能のうち、欲望を司るところが傷つくと夢を見なくなることがわかり、現在は、「夢の源は欲望であるから、夢には意味がある」〔ソームス〕と認識され、再びフロイトやユングの世界が注目されている。

レム睡眠は一晩で3-4回起こるので、誰でも100%一晩に3.4回の夢を見ていることになる。しかし、脳の視床下部にあるMCH神経が夢を消去してしまうので、覚えていないのだ。ちなみにこの神経、脳の食欲中枢を司る視床下部や記憶の海馬と繋がっている。ノンレム睡眠は記憶の定着を図り、レム睡眠は記憶を消去する役割を担っている。夢をずーっと見ているのが胎児である。夢は脳機能で生じるのが半分、そして残りは神秘的であると現代の脳科学者は語っている。脳は今もわからないことが多いのだ。

夢を体験する感覚は、自らの意識を感じることである。そして思考が生まれ出ている瞬間を体験しているとも考えられている。この研究が進むと、意識や思考の発生原因が特定できるかもしれない。多治高生の諸君、この分野の研究は、未知の部分が多い。挑戦し甲斐があるとききょうはおもう。チャレンジャーを求む。